

JCNE助成金活用セミナー

「募集要項の読み方」

【ダイジェスト版】

(一財) 非営利組織評価センター 山田泰久
Twitter : @canpan2009
<http://www.facebook.com/yamadamay>

2022年6月Ver.01

プロフィール：山田泰久（やまだやすひさ）

一般財団法人非営利組織評価センター 業務執行理事

寄付月間 推進委員会委員／共同事務局事務局長

一般社団法人全国コミュニティ財団協会 監事

イシス編集学校（松岡正剛氏主宰） 師範代

群馬県高崎市出身、慶應義塾大学文学部卒（フランス文学専攻）。

1996年日本財団に入会。2009年から公益コミュニティサイト「CANPAN」の担当になり、NPO×情報発信、助成金、IT活用、寄付をテーマに様々なNPO支援の活動に取り組む。

2016年4月、（一財）非営利組織評価センター（JCNE）の設立とともに、業務執行理事に就任し、非営利組織の組織評価・認証制度の普及にも取り組んでいる。

twitter: @canpan2009

Facebook <http://www.facebook.com/yamadamay>

note <https://note.com/yasuhisayamada>

CANPAN講座 <http://blog.canpan.info/c-koza/>

JCNE・NPOフォーラム <http://blog.canpan.info/cpforum/>

情報発信のこともやっています。

セミナーだけでは伝えきれないことを本にまとめました。

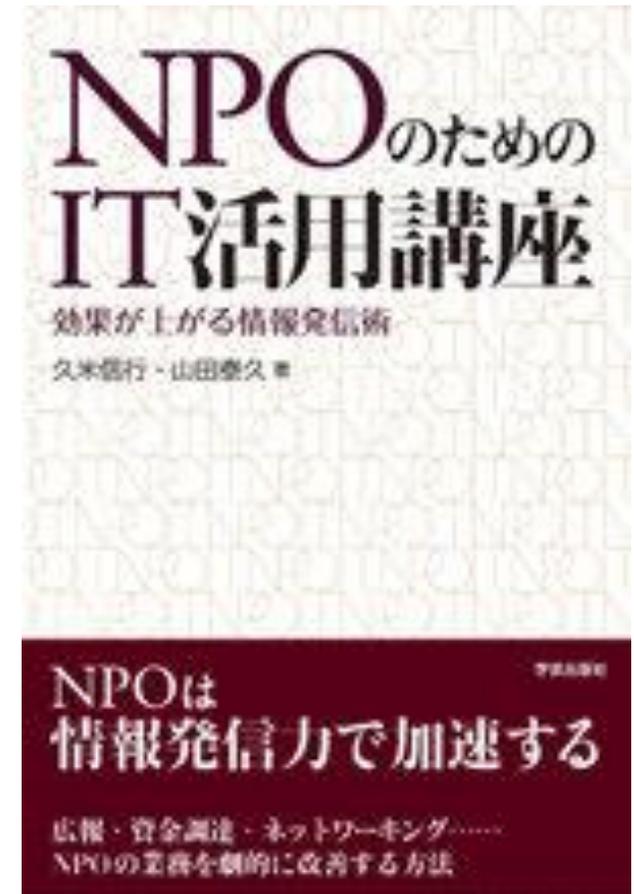
NPOのためのIT活用講座
～効果が上がる情報発信術
久米 信行 著 山田 泰久 著
学芸出版社



四六判・224頁・定価 本体1800円+税

■■ 内容紹介 ■■

「お金が足りない」「忙しい」「どんな情報を発信していいかわからない」…そんなアナタに、無駄な手間とコストをかけず、個人・団体としての活用を使い分け、広報、資金調達、マーケティング、キーパーソンとのネットワーキングなど、NPOの業務に劇的な効果をもたらす方法を、二人の達人が豊富な事例をもとにお伝えします。



非営利組織評価センター（JCNE）

2016年4月1日、全国の非営利組織の評価を行うことで信頼できる組織の情報を広く社会に発信し、支援環境の充実に寄与するために非営利組織評価センター（JCNE）を設立しました。

チャリティの歴史が長い諸外国では、第三者である評価機関が寄付等を受けて活動する団体の運営状況を評価認証し、結果を公開しています。日本でも同様の非営利組織の評価が必要な時期になりました。

この非営利組織評価センターは民間セクターの手で作りたいという願いから、多くの団体に設立のご支援をいただきました。株式会社をはじめ助成財団、NPO、一般法人といった多様な設立発起人からのご出捐。そして賛同パートナーである助成財団からの応援を得ています。さらに5年後の自立を目指し事業運営には日本財団の助成をいただいています。

組織マネジメントに関する第三者評価



グッドガバナンス認証

JCNEの独自の評価基準に基づき、専門の評価員が団体を訪問し、ヒアリングや書類確認によって組織運営の状況を評価しています。その評価結果をもとに、非営利組織の中でも組織運営やガバナンスが一定水準以上のレベルの団体を認証しています。グッドガバナンス認証団体は外からは見えにくい組織内部の状況を第三者機関に開示して、信頼性・透明性の向上に努めている団体です。また、課題がある場合も見直し、改善をしていく姿勢や意欲のある団体でもあります。寄付をしたい、ボランティアとして参加したいという市民や企業の方が、期待をかけて支援ができる団体として紹介しているのが「グッドガバナンス認証団体」です。

https://jcne.or.jp/evaluation/good_governance/



グッドガバナンス認証

ベーシックガバナンスチェック

JCNEの独自の評価基準に基づき、団体運営の基本についてセルフチェックと提出書類をもとに簡易的に評価をしています。評価結果は「ベーシックガバナンスチェックリスト」で公開され、随時更新されます。継続的に第三者評価を受け、情報開示に積極的な透明性の高い団体として、JCNEは掲載団体への支援を推奨しています。

ベーシック評価基準23項目に基づく簡易的な組織評価です。

<https://jcne.or.jp/evaluation/outline/>

寄付月間：毎年12月

欲しい未来へ、 寄付を贈ろう。

欲しい未来へ、寄付を贈ろう。



一年の終わりに、考えたいのは未来のこと。

もっと楽しい未来。もっと優しい未来。

もっと平和な未来。もっと多様性が認められる未来。

そんな未来を手にするために、あなたの気持ちを寄付にしよう。

寄付は意思、寄付は投資、寄付は応援、寄付は願い。

寄付で未来は変えられるのです。

だから、「Giving December」。

一年の終わりに、未来を考え寄付をする。

そんな習慣を、はじめたいと思います。

欲しい未来を叶えてくれるさまざまな取り組みに、

あなたの想いを託しましょう。

さあ、年の終わりに、新しい「寄付」がはじまります。

欲しい未来へ、寄付を贈ろう。



寄付月間～Giving December～について

寄付月間とは

寄付の受け手側が寄付者に感謝し、また寄付者への報告内容を改善するきっかけとなり、そして多くの人々が寄付の大切さと役割について考えることや、寄付に関心をよせ、行動をするきっかけともなる月間を制定する。

推進委員会

委員長 小宮山宏 三菱総研理事長/元東京大学総長

共同事務局長 山田泰久 一般財団法人非営利組織評価センター 業務執行理事

民間非営利組織、企業、行政、国際機関などで寄付に関連する取り組みをしている全国代表的な機関の代表者が集まり、35名の推進委員会を構成 各法人の有志による共同事務局を設置して、寄付月間の統一ロゴ作成や各方面との連携による全国的周知による啓発活動、イベント開催や賛同パートナー（無料）の拡大などを行います

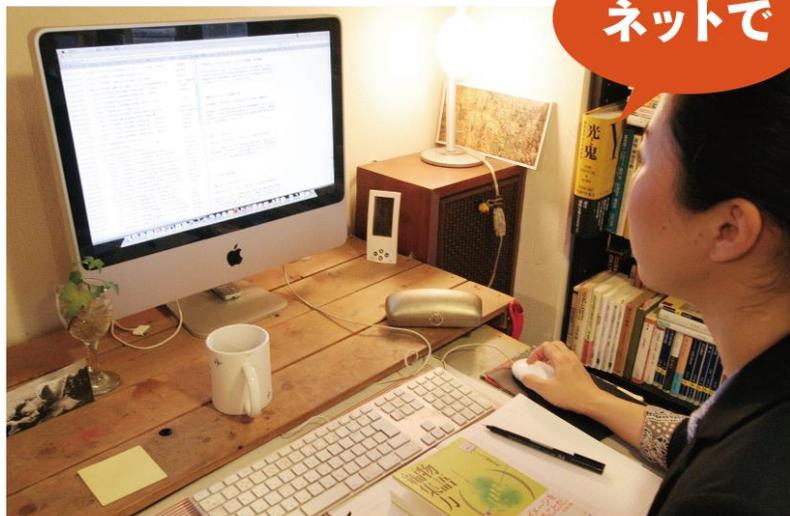
その他

・社会課題の解決のための寄付の促進が本委員会の設立の背景にあるが、寄付の定義は、寄付者個人によって違いがあり、多様性を許容する観点から、寄付の定義について委員会としては明確な排他性をもたない。

・本委員会、寄付月間参加は、各主体の自発性に基づくものであり、何ら強制的な要素を含まない。また、特定団体や特定課題への寄付を要請するものではなく、委員会としての政策提言を目指すものではない。



いますぐ体験!



ネットで

編集力チェック **無料**

編集力とはどんなもの? イシス編集学校の稽古を無料で体験できます。ウェブから申し込むと「お題」がメールで送られてきて、回答を返信すると、師範代から指南コメントが届きます。

▶ <http://es.isis.ne.jp/web.html>



リアルで

ISISエディットツアー

ブックサロンスペース「本楼」ほかユニークな書棚空間を巡りながら、編集的な体験を楽しむツアーです。映像や座談、ワークショップを交え、アタマもココロもやわらかくする2時間のプログラムで、「編集」のエッセンスを体感。イシス編集学校の編集稽古も体験できます。

● 毎月開催、日程限定。 ● Ticket: 1,500円(税別)

▶ <http://es.isis.ne.jp/edittour.html>



詳しくはイシス編集学校ウェブサイトをご覧ください。 <http://es.isis.ne.jp>

資料請求・お問合せ・お申込は

イシス編集学校 学林局

front_es@eel.co.jp

よい団体とは、
よい活動とよい情報発信を
している団体である。

助成金も同じ

①NPOセクターの立場で

→より多くのNPOが情報発信することで、
NPOセクター全体の信頼度をアップする

②市民の立場で

→専門的な情報を必要としている人に情報を届ける
→自ら情報発信できない人に代わって発信する

③団体の立場で

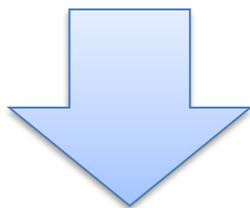
→団体や活動を持続的にするための資源を獲得する

なぜ、NPOは情報発信するのか？

そもそも、NPOやその活動は外から見てわからない存在である。

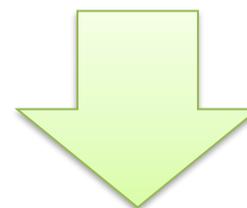
NPOの活動は、現場にいないとわからない。

活動の可視化



活動中の感動を

活動の価値化



価値にして伝える

本日も話すること

NPOが活用できる助成プログラムは何件くらいあるのでしょうか？

ざっくりとした数字ですが、全国規模のもので300～350件、都道府県域の地域限定のもので30～50件、350～400件程度の助成プログラムがあります。今回は、助成金の情報の入手の仕方、調べ方、見つけ方を解説しました。今回は、その見つけた助成金の募集要項の読み方を解説します。

さらに、団体や事業を成長させるための助成金の活用という観点から、募集要項の読み方をお伝えいたします。助成金を活用することで、どのように組織基盤強化につなげていくことができるのかを学ぶことができます。

第1部：助成金に関する講義(40分)

第2部：ベーシックガバナンスチェックのご案内(10分)

第3部：質疑応答

お話しをする前に・・・①

助成金に関する基礎知識は、以下のページの掲載資料参照

<http://blog.canpan.info/c-koza/archive/517>



【基本】初級～上級

1. 助成金の全体像を把握する

助成金の活用2014_セミナー資料_基礎編.pdf

2. 助成金というものがどういうものか、その基本を知る

助成金セミナー基礎編_日本財団荻上.pdf

3. 助成金申請から事業報告まで、助成金に関する一連の流れとやることを学ぶ

助成金活用マニュアル_日本財団荻上.pdf

【応用】中級～上級

4. 助成金を活用するという視点で、あらためて助成金の可能性について学ぶ

助成金の活用2017_セミナー資料.pdf

5. その他、申請から事業実施まで、助成金について参考なると情報を知る。

助成金の活用2014_参考資料.pdf

お話しをする前に・・・②

助成金について学ぶために参考になるサイトや資料など

1. (独法)福利医療機構 WAM助成

<https://www.wam.go.jp/hp/cat/wamjosei/>

助成金に関するノウハウ集や事業評価報告書など参考になる資料が豊富

2. あいちモリコロ基金の調査・評価(基金の運営&助成活動の成果)

https://www.morikorokikin.jp/7_chosa/chosa.html

10年間の助成プログラムの総括報告書が助成金の考え方を学ぶのに最適

3. IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]

ソシオ・マネジメント第4号「成果を最適化するための助成プログラムのコミュニケーション調査」

NPOマネジメント(バックナンバー)

<http://blog.canpan.info/npomanagement/>

ソシオ・マネジメントは助成財団向けの内容だが、助成金をさらに詳しく学びたい方にお薦め。

今日のポイント

- ①募集要項はわかりづらい
- ②募集要項の種類を知る
- ③「募集要項」という書類のクセを知る

⇒時間がある時になるべく多くの募集要項を読む

募集要項の読み方のポイント

マッチング系とインスパイア系の2種類がある。

- ①マッチング・・・自団体の活動にあっているかどうか？
- ②インスパイア・・・募集要項をきっかけに活動や事業を考える

2つの読み方

1. 情報収集として募集要項を読む

- ①申請できる助成金を探す
- ②事業のヒントを探す
- ③「助成」を理解する、研究する、学ぶ
- ④読んで楽しむ

2. 申請のために募集要項をしっかりと読み込む

- ①マッチングする
 - ・対象事業と申請事業
 - ・対象団体と自団体
 - ・各種条件
- ②対象事業の種類をチェックする
 - ・活動(対人サービス)
 - ・調査や実証実験
 - ・まとめ、成果、普及

★対象事業をチェックするポイント⇒活動領域と活動手法

助成プログラムの種類

助成の分類(対象事業)

①活動の実践

- ・通常の活動(対人サービス／環境活動)
- ・パイロット事業を通じての実証実験
- ・活動支援を通じた団体支援

②普及振興

調査、研究、実証実験、仮説検証、人材育成、ノウハウ化、コンテンツ化、普及啓発

③ハード／ICT

備品、機器、建物、車両、ソフト、アプリ、Webサービス

助成プログラムの目的

①受益者モデル

②活動応援モデル

③課題解決モデル

④分野振興モデル

助成申請のための書類の読み込み

募集要項は助成金申請をするために読むもの

①まずは情報収集

②考えている事業がマッチするか？

以下の構成で書類を読み込む。

第1群：募集要項

第2群：助成実績、前年度の助成決定のお知らせ

第3群：申請書、事業報告書のフォーマット

第4群：財団の事業報告書、助成プログラムの報告書

助成金の募集要項を作る側の視点で考える

①助成金の募集要項の目的には2種類ある

- ・助成金制度を説明するためのもの
- ・助成財団が想定する世界観を伝えるもの

②助成金の募集要項は2つの要素で成り立つ

- ・助成金の制度の説明書
- ・助成財団が求める課題解決の状況の説明書

③助成金の募集要項は2つの作り方がある

- ・具体的な事業内容を想定したもの(テーマ特化型)
- ・ふわっとした内容のもの(フリースタイル)

★後者は助成財団の意向より申請者の創造性に思いを託したもの。

なるべく自由な発想で考えてもらいたいので、ふわっとしている。

募集要項の読み方のヒント

募集要項を読むための補助線

- ・助成財団が考えている規模感は？
- ・助成金の裏テーマは？
- ・助成財団が大事にしていることは？

助成金の募集要項で制度の詳細が書いてある理由

- ・そこでふるいをかけたいから
- ・条件にあわないものは申請をしても振り落とされる
- ・逆に詳細な条件がないものは申請者の裁量が大きい

助成金とは・・・

樹木は育成することのない
無数の芽を生み、
根をはり、枝や葉を拡げて
個体と種の保存にはあまりあるほどの
養分を吸収する。

樹木は、この溢れんばかりのの過剰を
使うことも、享受することもなく自然に還すが
動物はこの溢れる養分を、自由に
嬉々としたみずからの運動に使用する。

このように自然は、その初源からの生命の
無限の展開にむけての秩序を奏でている。

物質としての束縛を少しずつ断ちきり、
やがて自らの姿を自由に変わっていくのである。

**“デンマーク王子アウグステンブルク公にあてた
美学的なことに関する書簡第27号より一部を抜粋”
フリードリヒ・フォン・シラー**



横浜／ランドマークタワー